

ま・な・び 記録帳

小さな「笠山」の大きな魅力

◆笠山のプロフィール



菊ヶ浜から見た笠山（右）
平たく美しい形をしている

萩市街地の北の方向に、日本海に突き出すように見える笠山は、標高一二mの本当に小さな、日本でも最小クラスの火山です。

まず、笠山がどのような火山活動によって誕生したかを紹介していきます。約一萬一千年前、この一帯は陸地でした。笠山の噴火により大量の溶岩が広範囲に流れ出し、安山岩の溶岩台地ができ、その上にさらに溶岩が流れては固まることを繰り返し土台ができてきました。

約八千八百年前になると、溶岩流を噴出させる噴火から

ストロンボリ式噴火に変化します。これはマグマのしぶきが噴き上がって降り積もっていくもので、これにより丘（スコリア丘）ができました。最後に、その上にさらに小さなスコリア丘ができ、噴火活動を終わめました。

簡単に説明しなすと、平たく広い溶岩台地ができ、その上に二段重ねのスコリア丘ができたことにより、離れたところから見ると中央部が盛り上がり、市女笠（いちめがさ）のような形となったというわけですね。

◆笠山の溶岩を見てみよう

フィールドに出てみると、異なる形状の溶岩を手軽に観察することができず。

山頂を目指す、椿群生林のある虎ヶ崎周辺の海岸に立つと、黒いごつごつした岩に覆われています。溶岩の外側と内側で流れる速さが異なることで、縄状のしわができたこと、溶岩が表面を流れる際に、その縁の部分が冷え固まって壁状の溶岩堤防ができたこと、溶岩の様々な表情を見ることができず。



黒々とした海岸沿いの溶岩
に波が打ち寄せている

一方、中央部の火口周辺は赤い石に覆われています。スコリアと呼ばれる石は、マグマのしぶきからガスが抜けた軽石だそうで、酸化により赤くなったものだそうです。持ち帰ることはできませんが、手のひらにのせて写真を撮ってみました。



火口周辺の溶岩は軽石状

◆笠山のきょうだいたち

こちらは展望台から沖に浮かぶ萩六島を撮影したものです。向かって左奥から相島・羽島・尾島・肥島・櫃島・大

島といえます。なんだか平べったい島々だと思いませんか。この独特な景色も萩の魅力のひとつです。

これらの島々は、実は二一萬年前から六萬年前にかけて次々に誕生した火山なのです。笠山と同様に安山岩による溶岩台地ですが、ふつう安山岩のマグマは粘り気が強いので溶岩台地を作ることは稀で、日本はもとより世界でもほとんど類を見ないそうです。ご覧ください、本当に平たんな島々ですよ。



日本海に浮かぶ萩六島。左奥の相島と右端の大島は有人島だ。

萩六島は笠山のきょうだいということで「阿武火山群」の仲間となっていますが、驚くなかれ阿武火山群は約五〇か所の火山の集まりなのです。これらは一ヶ所で一度だ

け噴火するというのが特徴の火山群で、萩市周辺の日本海と内陸部に点在しています。こうした火山について、約一億年前からのマグマの活動による大地形成の変遷については、「萩ジオパーク」という切り口で別な機会にまとめることにしましょう。

* *

話を戻して、約八千八百年前に火山活動が終息した後、約七千から五千五百年前にかけて「縄文海進」：氷河期が終わって海面がぐっと上昇したことにより、笠山は島となります。その後、砂州が形成されて陸地とつながり現在の姿となりました。

笠山の入り口にある明神池は、陸とつながる時に海が取り残された部分で、山中の崩れた溶岩の間にできた空間にたまった冷気が流れ出す風穴は、初夏から夏の涼スポットとしておすすめです。

はじめに記述のとおり、標高一二mの小さな火山「笠山」ですが、そのマグマの活動の歴史を知ると、大きな魅力を持つ場所だと感じずにはいられません。